

明石高専 同窓会通信 第1号

〒674 明石市魚住町西岡679-3
明石工業高等専門学校・同窓会

目 次

会長挨拶	宮脇 正博	1
学校長挨拶	大谷 巖	2
【母校の近況など】		2
なつかしの恩師より	片岡 義雄、黒田 満	3
同窓会創立30年にあたって	吉永 清克	4
専攻科の発足	中山正太郎	5
明機会関東支部より	横田 博	6
【事務局からのお知らせ】		6

会長挨拶

建築学科1回生 宮脇 正博

拝啓、同窓会会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

早いもので私が同窓会の会長に就任してから3年半が過ぎました。この間に目立った活動は出来ておりませんが、平成6年11月にはこれまでと一味違った会員名簿を発行し、又、これに伴い長年の懸案であった会費の値上げ等関係者のご努力により実現することが出来ました。できれば会員の名簿や会費の納入を管理する専任の方を配置したかったのですが、まだ実現できておらず、早く見つかればと思っています。

さて、この度、関係者の方々のご協力により明石高専・同窓会通信第1号が発行できる運びとなりました。もっと早く会員の皆様にお届けすべき所を、私ども役員の不手際で今になってしまいましたことを深くおわび致します。最近パソコンなどの発達により情報社会といわれており、公的、私的にかかわらず情報がいかに大切であるかということを肌で感じておられると思いますが、その時代においてこれまで皆様に同窓会の活動をほとんどお知らせしていないことについて、役員一同、誠に申し訳ないものと思っております。これからは過去のものでな

く今の情報を効率よく皆様にお届けできるよう、努力していききたいと思います。

今回は同窓会が設立されて30年が経過する記念すべき年であり、のちほど詳しくお知らせしますが、30周年を記念した事業を考えておりますので皆様のご協力をお願いします。また、平成4年11月には学校設立30周年を記念した第3回総会が実施されましたが、今年は5年目の年となりますので、秋以降に第4回総会を計画しております。会員の皆様に多数参加して頂けるような企画を考えますが、会員各位の方で何かよいアイデアがあれば是非、事務局へご連絡下さるよう、よろしくお願い致します。

今後とも我々役員一同、同窓会のより一層の活性化に向けて努力していく所存でございますので、会員諸氏におかれましてもご支援・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

最後に本通信の発行に際し、ご執筆頂きました大谷校長を始め、諸先生・会員の方々に感謝申し上げますと共に、これからもよろしくご指導頂きますよう重ねてお願い申し上げます。

敬具

学校長挨拶

学校長 大谷 巖

同窓会通信の発行を心よりお喜びいたします。

御承知のように本明石高専は、昭和37年創立の国立第一期校の高専の一つとして、高専界に最も古い歴史を誇り、創立以来35年の間に四千名をこえる卒業生を世に送り出し、卒業生の方々は我が国産業界のみならず各界にわたって顕著な活躍をしておられることはまことに心づよい限りであり、慶賀にたえません。

現在も年々本校を巣立っていく学生達は、きびしい社会、経済状況の中にあっても、100%の進学、就職を果していますが、これもひとえに創立以来の卒業生の皆様の社会各層での御活躍が生み出した本校への高い評価のあらわれであり、今や、本校の発展は、卒業生の皆様の活躍によって支えられているといっても過言ではありません。

皆様の卒業された明石高専もその後整備の歩みを続けてまいりましたが、その主なものとしては、近年では、平成6年の土木工学科から都市システム工学科への改組、昨平成8年の専攻科の設置があげられます。また現在、諸学科の

改組、新設学科の検討、産学共同のための共同利用センターの新設など情報化、国際化の時代、生涯学習の時代に対応した整備をめざしてその計画化が進んでいます。

どうか今後とも卒業生の皆様の本校の発展に対する御支援を心からお願いする次第です。

この度の同窓会通信の発行は、会員相互の交流を深めるとともに皆様の母校である本明石高専の現況をお伝えする趣旨で企画されたとは伺っていますが、本校の現状にさらなる関心を持っていただくためにも、本校出身の教職員はもとより関係教職員が一致協力して情報の提供に努めて参りたいと存じていますので、会員相互の交流とともに本校とのきずなを深めていただくことを学校としても、あけてこれを願っていることを御了承いただければ幸いに存じます。

どうか同窓会通信の発行をはじめとする本校同窓会活動がますます活発となり、それかひいては会員の皆様のはげみになるとともに本明石高専の存在をますます世に知らしめるよすがともなってもらいたいことを願って御挨拶と致します。

母校の近況など

- (1) 退任教官 平成7年 高林 譲(一般)、土井 崇司(建築)、中井 英一(一般)、山口 広(電気)

平成8年 中山 徹(建築)、ケヌッドソン クリス(一般)、鶴戸 忠一(機械)

- (2) 新任教官 平成7年 坂戸 省三(建築)、善塔 正志(一般)、増田 佳代(一般)、吉村 亨(一般)、篠原 寛隆(電気)

平成8年 大塚 毅彦(建築)、廣田 和男(機械)

- (3) 名誉教授 平成7年 高林 譲、土井 崇司

- (4) 施設 平成8年 情報処理教育センターが一部改修され、演習室が増設された。
[第1演習室：DOS/Vパーソナルコンピュータ50台、管理用ワークステーション1台、プリンター5台など(新規導入)
第2演習室：Macintoshパーソナルコンピュータ45台、管理用ワークステーション2台、プリンター8台など]

- (5) その他 平成7年 各課、各係、各教官研究室等の電話がダイヤルイン化された。
[電話番号等は、078-946-6017(学校代表)にお問い合わせ下さい。]

平成8年 専攻科が設置された。

母校のWWWホームページ (<http://www.akashi.ac.jp/>) が試験的に公開されています。一度、アクセスしてみませんか。

なつかしの恩師より

同窓会とは

名誉教授 片岡 義雄

この度、同窓会通信を発刊される由、誠に時宜を得たものと発想された方々に深甚の敬意を表し大いに賛同するところ。元教官としてお祝いをとのことで、この機会に同窓会とはと改めて問い直して見た。国語大辞典（小学館）記載の「同じ窓の下で学ぶ意、同じ学校に・学んだこと。またその人。福沢諭吉・学問のすすめく同塾同窓の懇意…。幸田露伴…。丹鉛左伝・同官為寮く・寮小窓・指其齋署同窓為義…」などからみて、同窓会の名付け親は明治人らしいが、同類集団は藩学にもあったと想像する。また、alumnus（卒業生、校友）などという英語があることから見ても、外国にも同窓会があるのだろう。U.S.A.の著名な大学で、母校から委嘱された各地在の卒業生からの面接報告が、入試選考で1/3のウエイトで関与すると曾て聞いた。この点については同窓OBと出身校との継なかりは日本以上である。

高専取分け学寮で、親離れ後初めて会う人達との赤裸々な交わりを、実社会へ進出と引換えに失いたくないと惜しむのは極めて自然であり、何時しか当番が決まって無名有名同期クラス会が誕生して来た。その集合体として同窓会の成立も当然の成行きであった。当時、学生諸君に教師達が他校の前例を参考として提示したとしても。その後同期集会等等での垣間見から、同期・同窓会は、安心して何でも話せる身内として、また、業務上必要な情報交換の場として、OB諸君の間で大いに活用されていると見る。忙しい世代で全員が集う間がなくても。関東地区ではEメールによる交歓も始まった。併行して膝突合せての機会も必要と真意を聞かされ、全く同感。PC等による情報通信網が経済活動・社会関係に革命的な変革を齎す可能性は周知であり、最近には短期的視野とドライな労働感でリストラに成功したU.S.A.の巨大企業と日本の現状を対比する関経連某有識者の憂慮も耳にした。この状況下でも、否なればこそ同窓会に冷淡或は無視することは出来ない。吾々は先輩の遺産を継承して育ちつつあるのだから。白けていては自滅あるのみ。小さな集団にさえ寄与出来ないで、大きい集団に寄与出来るとは考え難い。老兵は消えるのみだが、同窓会の皆さんの一層のご発展を衷心から祈る。

日暮れて酒を楽しむ

名誉教授 黒田 満

創立以来30年余り、すでに30回もの卒業生を送り出しているのに、なぜ同窓会会誌のようなものが出ないのかと思っていたところ、今回それが発行の運びになったとのこと、喜びに堪えない。ついては、近況、学校への意見注文ということだが、近況はともかく、意見注文など、隔世の感のみが先立ち、とうてい述べられるものではない。強いて言えば、長くバスケット部の顧問をしていて、昭和53年岐阜の全国大会で3位になった喜びの印象が強く、以後あまり芳しい成績を聞かないので、頑張っしてほしいと期待するくらいのものである。

これが近況になるかどうかかわからぬが、退官したら親子3人で海外旅行というのが夢だったので、さっそく香港へ。当地でバスケットをやっていた土木の磯野君に会った。これで自信をつけて、1週間単位で1年に1つの国、という計画で、フランス、ドイツ、スイス、イタリアを、地図を頼りにレンタカーで走りました。パリでは建築の野口先生に会いました。運転はもっぱら子供（独身の外科医）まかせでした。これで欧州はもうよかろう、次は東南アジアということになり、シンガポールを済ませ、次はバリ島という年、例の大震災。寝室の長方形の壁が平行四辺形になるほど揺れて、家は半壊。大変な目に遭ってしまった。

長い勤めも昨年限りでやめ、何のDUTYもない生活とはこんなにも楽しいものかと実感している。好きなときに本を読んだり音楽を聴いたり、全く自由な日々を謳歌している。マンションに長く居たが、夏の涼しさを求めて、ここ奥池（芦屋と有馬の中間の芦屋市）に家を求めたが、あまりの住み心地の良さに、マンションには帰らずそのまま3年間も住み着いてしまっている。もう少しするとホトトギスや鶯が啼き、ほんとうに長閑な所です。夕方には犬を連れて散歩、黄昏ともなれば「さあ、お酒」ということになる。機械科の柿内先生の言。「黒田さんの酒はトドメがない」。近頃はそれほどでもないが、今日は酒を控えようとか、やめておこうとか、そんなことは一度も考えたことはなく、元気に飲み続けている。今日もぼつぼつ黄昏れてきた。高専の益々の発展、教職員の皆様方、卒業生諸君のご多幸とご健康をお祈りしながら、乾杯！

同窓会創立30年にあたって

土木工学科2回生 吉永 清克

1. 同窓会の役員会

同窓会の役員会において、いつも話題になる事柄に、会費の徴収と同窓会会館があります。「会費が集らないから、活動ができない」、「活動しないから、会費が集らない」、「会費を納入しない会員をどうしようか」、「同窓会会館が欲しい」、「建設費・運営費などの資金がない」などの意見です。最近では、「引退した会員の対策もそろそろ考えておくべきだ」という意見もでるようになりました。何分、卒業生が年160人と少なく、財務体質の脆弱な同窓会です。今までの主な活動は、名簿の発行、総会の開催、会報の発行、在校生に対する高専祭の補助やオリエンテーションなどです。これらの活動は、資金の制約もありますが、名簿管理・会費徴収などの事務処理をする担当者が不在のなかで、一部の会員のご尽力により継続されてきました。同窓会で、専任の事務職員を雇用できる資金はありませんし、会員連絡の通信費も大きな負担となっています。

2. 同窓会創立30年

平成8年春に、第30回生が卒業しました。第1回生は齢50を越え、同窓会の会員全員が社会人として現役という円熟期を迎えました。この時期を、同窓会活動に刺激を与え、一層の活性化を図るのによい機会と考え、同窓会の新規事業を提案することにしました。本来ならば、記念事業としての実施項目を定め、目標金額を決めて、寄付金を集めるというプロセスを経ることになります。しかし、準備作業の手間、期間を勘案して、今回は、同窓会の事業を実施するためのシステムづくりを提案することにしました。

3. 記念事業

提案の内容は、同窓会の会費とは別に、同窓生の寄付金を集めて同窓会の事業を実施し、同窓会の発展に寄与するシステムを構築しようというものです。同窓会の会費は、「公平に集めて公平に活動をする」という性格上、さらに、終身会費制の導入、徴収率の低迷により、従来の活動の継続維持だけで精一杯です。今回の提案は、「趣旨に賛同する会員から寄付金を集めて、同窓会の名で活動しよう」というもので、同窓会内に、同窓生の寄付金の受け皿組織をつくらうというものです。

4. 明石高専同窓会事業基金（仮称）

提案する事業基金の主な骨子は、つぎのとおりです。

① 運営は、同窓会の指導・監督のもとに、各科の会員から若干名の運営委員を選出して行うものとする。

② 資金は、会員の寄付金によるものとする。

③ 事業は、同窓会の活性化、発展を図ることを目的とするものとする。

5. 事業の具体的イメージ

事業の内容として考えられるものは、継続的な事業として、在校生を対象とした海外研修、マナー研修、教職員を対象とした研究資金の補助など、一時的な事業として、記念モニュメント（石碑、植樹、タイムカプセル）の設置などです。なお、学校当局との調整も今後の課題ですし、他に障害があるかも知れません。

当面は寄付金の徴収に努め、少なくとも10年間は継続して事業を実施できる状態にすることが目標となります。本来は、元本を取り崩さずに運用益で事業ができれば望ましいのですが、運用益が期待できない現在、例えば資金の半分を事業にあて、残りを将来の事業に備えて積立てるということになります。

6. 事業の開始

上記提案について、事業実施の必要性、事業内容のアイデア、趣旨の賛同者を増やす方法などあらゆる点について、会員各位のご意見を求めるものとします。ご意見の締切は、平成9年5月末とさせていただきますので、同窓会事務局まで送付してください。この会員各位のご意見を勘案して、次回同窓会役員会において、事業の可否を判断するものとします。事業を実施する場合は、発起人会を発足させ、次回同窓会総会において、事業の開始を報告します。その後、寄付金の受入れを始め、資金の集り具合を見ながら、なるべく早く具体的事業を開始したいと考えます。

専攻科の発足

教務主事・専攻科長 中山 正太郎

専攻科の教育目標と教育課程

同窓会員のみなさん、明石高専に平成8年4月に専攻科が設置されました。本校の長い歴史において、特筆すべき慶事であります。

設置された専攻科は、機械・電子システム工学専攻と建築・都市システム工学専攻で、定員は、それぞれ一学年8名です。修業年限は2カ年で、62単位以上を修得すれば卒業です。62単位のうち放送大学の科目を16単位以上修得し、学位授与機構の審査を経ると学士の学位が授与されます。卒業後は、学士として会社等に就職するか、大学院へ直接進学することが可能となります。専攻科への出願資格は、高専を卒業した者（見込みの者も含む）と外国で14カ年の学校教育の課程を修了した者です。

各専攻の教育目標は、機械・電子システム工学専攻では、機械工学と電子工学の両分野を基礎とする新しい技術分野に対応できる能力を持ち、先端的な生産システムや工業製品の開発に貢献できる開発研究型の人材の育成をめざします。建築・都市システム工学専攻では、建築と都市システム工学の両分野を基礎に、調和のとれた国土の開発、都市機能の高度化と高集積化、社会基盤および生活基盤の整備と防災などに対応し、生活環境をシステム工学的に計画・設計・構築できる開発研究型の人材の育成をめざします。

開設科目は、一般教養科目と専門科目で、後者はさらに専門共通科目と専門展開科目に分かれます。日本近代産業史などの一般教養科目は、豊かな国際性、協調性と指導力を育成する基礎科目です。数値計算法などの専門共通科目は、両専攻の基礎となる横断的科目でゼネラリスト型技術者育成のための幅広い専門科目で、制御システム工学などの専門展開科目は、各専攻の専門性をさらに深化させる科目です。選択制を原則とし、学生の自主的学習・研究を尊重することが専攻科の特色ですが、専攻科特別研究と専攻科ゼミナール・専攻科特別実習はいずれも必修科目です。

平成3年よりの専攻科設置への取り組みが実現しました。今後は、内容の充実に励みます。卒業生のみならず受検下さり、再度高専で学問に取り組まれることを切望します。

専攻科カリキュラム表

一般教養科目

選 択	日本近代産業史	2
	経済地理学	2
	代数学特論	2
	生物工学概論	2
	外国語Ⅰ	2
	外国語Ⅱ	2

専門共通科目

選 択	数値計算法	2
	情報理論	2
	解析力学	2
択	工業材料	2
	専攻科特別講義	2

専門展開科目（機械・電子システム工学専攻）

必修	専攻科ゼミナール	2
	専攻科特別研究	12
選 択	制御システム工学	2
	応用計測工学	2
	不規則信号解析	2
	画像情報処理	2
	放電応用工学	2
	固体システム工学	2
	固体力学	2
	生産システム	2
	流体工学	2
	移動現象システム	2
択	連続体力学	2
	光電子工学	2
	情報通信システム	2
	生体情報工学	2
	集積回路工学	2
	機能性材料工学	2
	デジタル信号処理	2
	真空工学	2

専門展開科目（建築・都市システム工学専攻）

必修	専攻科特別実習	2
	専攻科特別研究	12
選 択	構造力学特論	2
	地盤工学特論	2
	環境工学特論	2
	交通計画	2
	構造システム	4
	水工システム	4
	地盤システム	2
	計画システム	2
	防災システム	4
	都市景観計画	2
択	住空間計画	2
	都市形成史	4
	建築構造設計	2
	地域計画演習Ⅰ	2
	地域計画演習Ⅱ	2

修得単位

一般教養科目 8単位以上 専門科目 46単位以上
合計 62単位以上

明機会関東支部より

機械工学科7回生・支部幹事 横田 博

機械工学科では1回生の卒業以来、新年会を毎年開催し、今年で30回を数えるに至りました。そして、途中から組織化して「明機会」と称して運営しています。また、1991年10月には関東地方に在住の明機会員をメンバーとする「関東支部」を発足させ、会員数135名、支部長・工藤 明(3回生)氏と幹事7名の幹事団で活動しています。ここでは、関東支部の活動概況を簡単に紹介させていただきます。

【支部ニュースレターの発行】支部集会の開催案内を兼ねて毎年発行し、現役教官の寄稿による「機械工学科だより」が目玉記事となっています。(第5号まで発行。B4×4頁)

【支部集会の開催】毎年、秋に東京で開催し、退官された先生又は現役教官も1名参加して頂き、もう時効となった学生時代の出来事の思い出話等に花を咲かせています。(6年間の平均参加者数:11名)

【5年生との懇親会】毎年5月に学生が研修旅行で上京した際、支部会員との夕食会を開催し、就職・進学を控えた学生からの質問に対す

る回答やアドバイスをを行っています。2次会での支部会員相互の交流も恒例となっています。

(5年間の平均参加者数:13名)

【明機会Eメール友の会】95年秋に、支部会員のEメールアドレス帳の作成を開始し、現在の登録数は、関東以外の明機会員も含めて約20名で、ニュース等を発信しています。入会希望者は登録データ(氏名、卒業回次、勤務先所属、メールアドレス、TEL)を、前田 納(7回生)氏宛送付願います。

【その他】ロボコン全国大会(於:両国国技館)の応援に駆けつけています。

以上、活動上のエピソードにまで話題がおよばず、駆け足での紹介になってしまいましたが、関東でも何かやっているなど知っていただければ幸いです。なお、活動記録を続けていると、支部集会に参加して下さった先生から戴いた「関東地区での他学科OB会との連携も肝要である」とのアドバイスを思い出しました。これも実現させたいですね。

事務局からのお知らせ

(1) 会費の納入について 平成9年秋に名簿の発行を予定しております。名簿郵送時には会費の納入状況を同封いたしますので、未納分がある方は郵便振替にてご納入下さい。

(2) 住所変更等の連絡について 住所などの変更がございましたら、お手数ですが名簿に綴じ込みのハガキあるいはファックスにて同窓会の事務局の方へご連絡下さい。

(3) 募集 事務局では、主として名簿や会費の納入状況を管理していただける方を探しています。原則として、月に何回か直接学校の方へお越しいただける方に限ります。また、作業はパソコンで行います(データベースソフト「桐」を使用しています)。高額な謝金はお約束できませんが、自薦・他薦を問いませんので、仕事内容・謝金等の詳細を事務局までお問い合わせ下さい。お待ちしております。

事務局へのお問い合わせ等は、当分の間、下記までお願いいたします。

〒674 明石市魚住町西岡679-3

編集後記

同窓会通信は、3年毎の名簿刊行時に簡単な内容のものを発行していましたが、今回は内容を一新し、新たな形で第1号の発行ということになりました。今後は、毎年1回の発行を目指しています。

本号は、機械工学科の卒業生が編集を担当しました。年末年始のお忙しいなか、ご執筆いただきました方々には厚く御礼申し上げます。今後、号を重ねることで内容が充実され、会員諸兄に満足していただけるような同窓会通信になればと思っています。

編集委員一同